

京都府漁海況情報

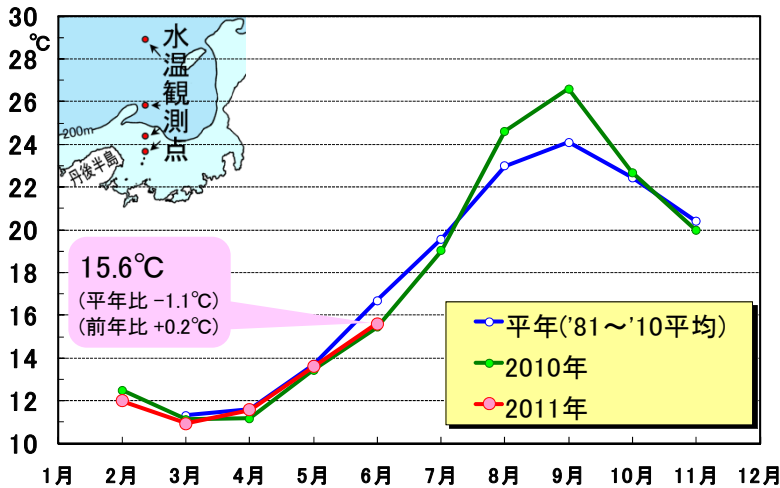
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話: 0772-25-3078 FAX: 0772-25-1532

海の状況

【現況】

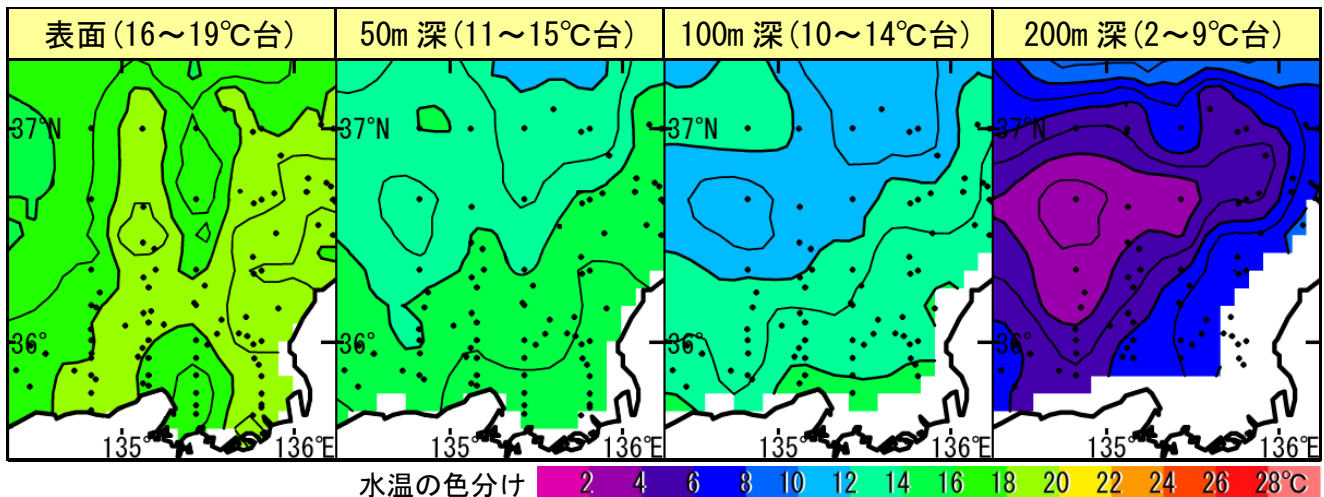
6月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年より低めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2011年6月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：気象庁

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し※	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

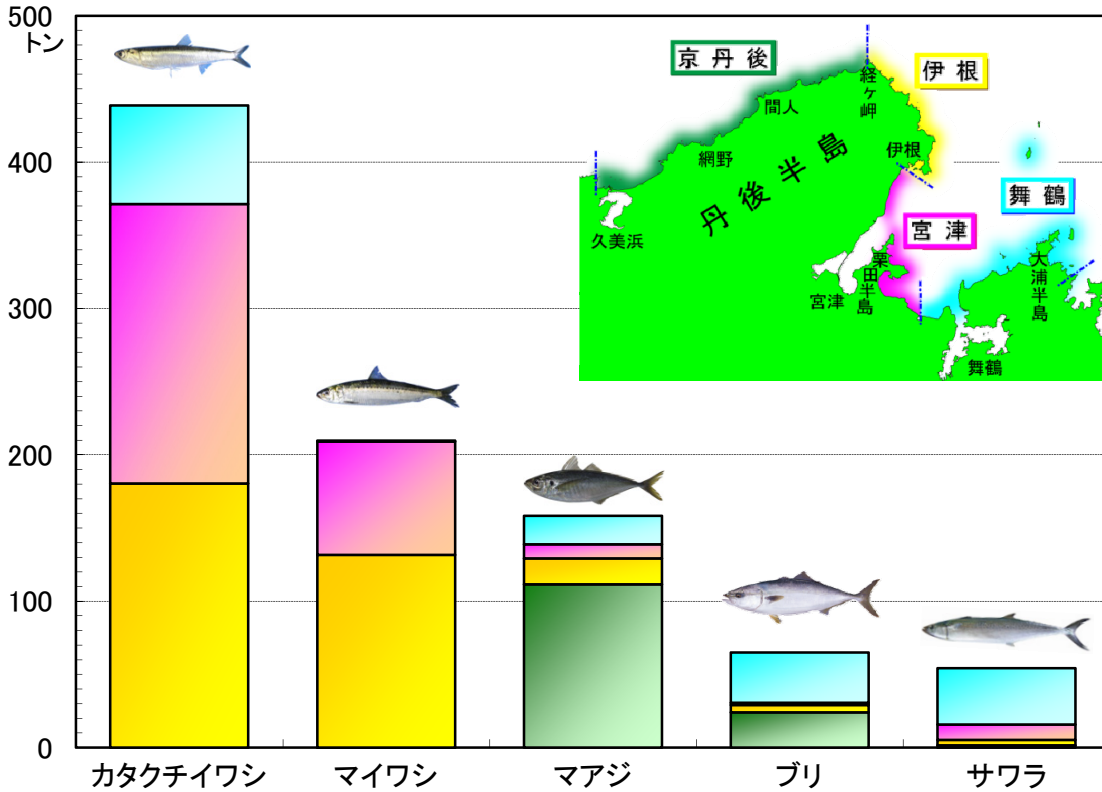
※冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2011年5月～

【定置網漁業】

先月と同様にカタクチイワシやマイワシのまとまった漁獲がありました。全体では平年並みの水揚げとなりました。

2011年5月の地域別漁獲量(上位5魚種)



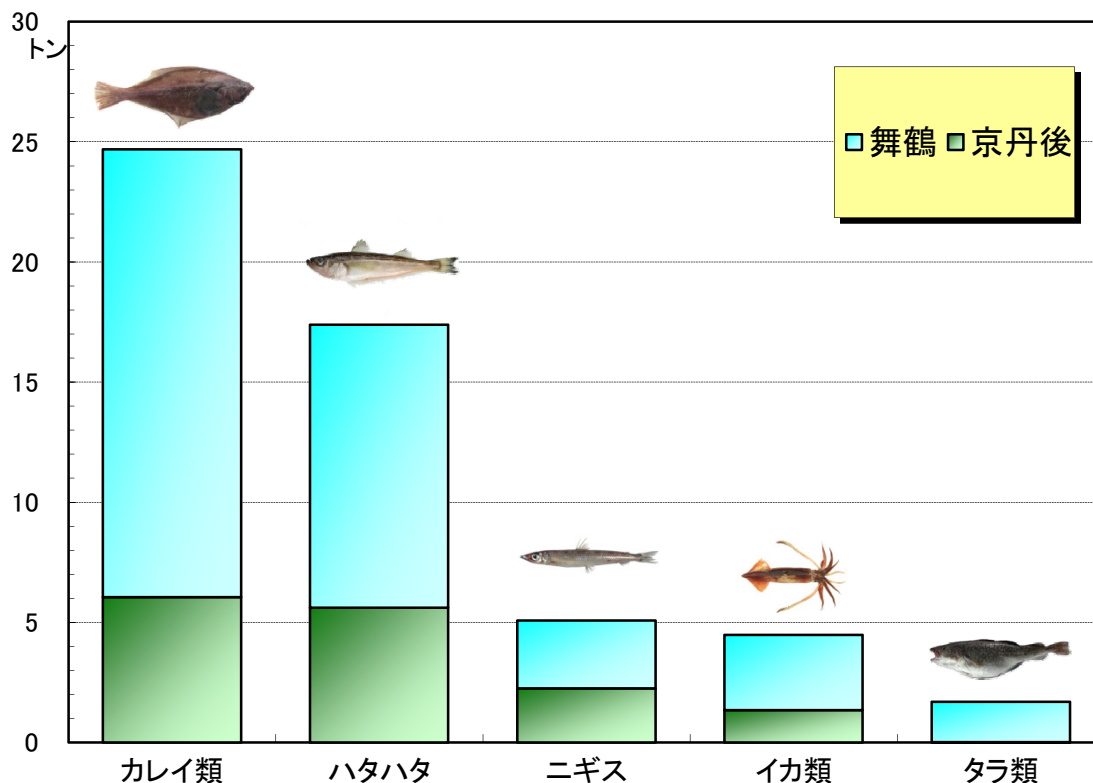
5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	438.6	62.0 (707%)	307.0 (143%)	<カタクチイワシ> 小・中たれ(体長 5～9cm)が漁獲の中心で、上旬には大たれ(体長 11～14cm)も獲れていました。 <マイワシ> おおむね体長 12～20cm(最頻 14～15cm)の範囲でした。 <ブリ> つばす・はまち銘柄(最頻 39～40cm)が7割強、まるご銘柄(尾さ長 55～60cm 主体)が1割強、ぶり銘柄が若干量でした。 <イカ類> スルメイカが7.0トン、ケンサキイカ(白いか)が4.3トンなどでした。
マイワシ	209.8	0.1 —	2.5 (8482%)	
マアジ	158.4	41.1 (385%)	310.7 (51%)	
ブリ	64.9	402.6 (16%)	210.4 (31%)	
サワラ	54.2	62.6 (86%)	48.2 (112%)	
タイ類	19.9	8.3 (240%)	10.2 (196%)	
イカ類	13.4	8.0 (167%)	25.1 (53%)	
サバ類	10.0	5.5 (182%)	24.8 (40%)	
スズキ	8.9	20.6 (43%)	9.7 (92%)	
ウマヅラハギ <small>(長はぎ)</small>	8.3	4.0 (208%)	5.9 (142%)	
その他	56.4	50.1 (113%)	79.3 (71%)	
合計	1042.8	665.0 (157%)	1033.8 (101%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

全体では前年並みで平年の8割程度の水揚げでした。

2011年5月の漁獲量(上位5魚種)

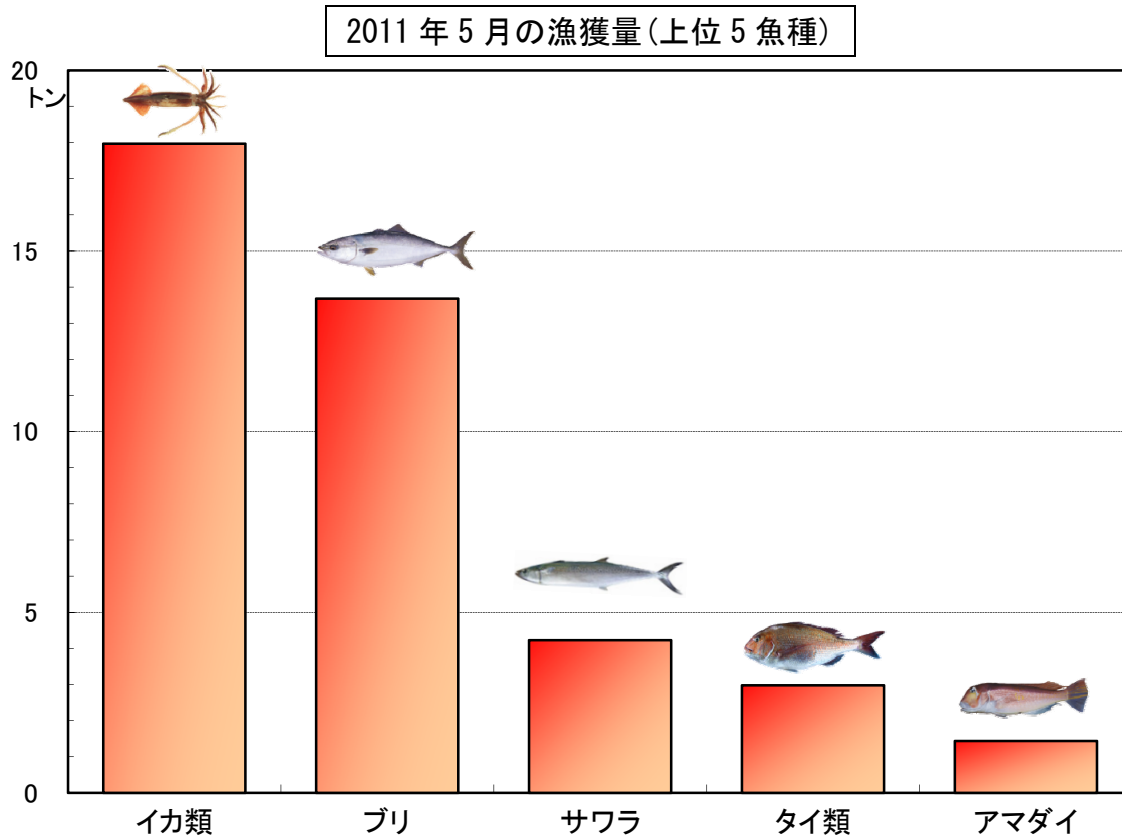


5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	24.7	30.5 (81%)	35.6 (69%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が 17.5 トン, ヤナギムシガレイ(ささが れい)が 2.7トン, ソウハチ(えて がれい)が 2.3 トン, ヒレグロ (黒かれい)が 1.4トン, ムシガ レイ(水がれい)が 0.5 トンなど でした。
ハタハタ	17.4	13.7 (127%)	19.2 (91%)	
ニギス(沖きす)	5.1	2.2 (235%)	4.3 (117%)	
イカ類	4.5	2.4 (188%)	2.7 (167%)	
タラ類	1.7	0.4 (449%)	0.2 (1038%)	
タコ類	1.4	1.9 (73%)	3.8 (36%)	
アンコウ	1.3	1.6 (80%)	2.7 (48%)	
タイ類	0.9	0.4 (203%)	0.7 (123%)	
エビ類	0.6	0.9 (66%)	0.8 (72%)	
貝類	0.6	1.0 (56%)	1.0 (54%)	
その他	3.4	7.1 (48%)	6.6 (52%)	
合計	61.4	62.1 (99%)	77.5 (79%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は平年の9割でした。

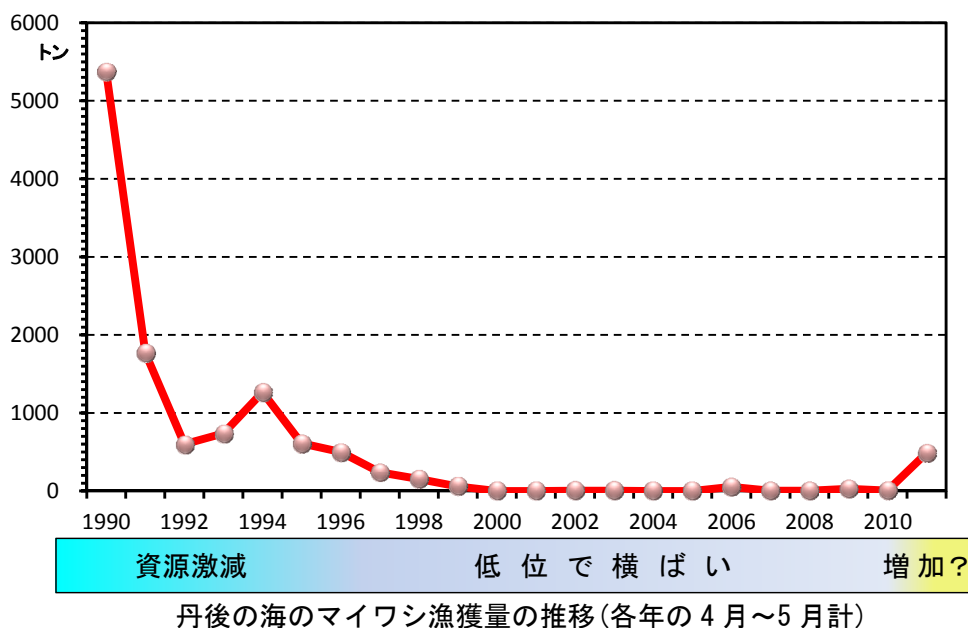


5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考	
イカ類	18.0	13.9 (129%)	16.0 (112%)	<イカ類> スルメイカが17.8トン、その他のイカが若干量でした。 <ブリ類> ぶり銘柄が3割強、まるご銘柄が4割弱、はまち銘柄が3割弱、つばす銘柄が若干量でした。 <サワラ> さごし銘柄が約7割、さわら銘柄が約3割でした。 <タイ類> マダイが約7割、レンコダイが2割弱、残りがクロダイやチダイでした。	
ブリ	13.7	13.3 (103%)	13.3 (103%)		
サワラ	4.2	3.3 (128%)	3.4 (123%)		
タイ類	3.0	2.9 (103%)	3.1 (95%)		
アマダイ(ぐじ)	1.4	0.7 (198%)	2.1 (68%)		
メバル類(もいお)	1.0	1.4 (69%)	2.3 (41%)		
マアジ	0.8	—	0.9 (90%)		
スズキ	0.5	0.8 (64%)	3.2 (15%)		
ヒラメ	0.1	0.1 (176%)	0.1 (119%)		
カレイ類	0.1	0.1 (133%)	0.3 (37%)		
その他	1.4	2.0 (73%)	4.1 (35%)		
合計	44.3	38.4 (115%)	48.9 (90%)		

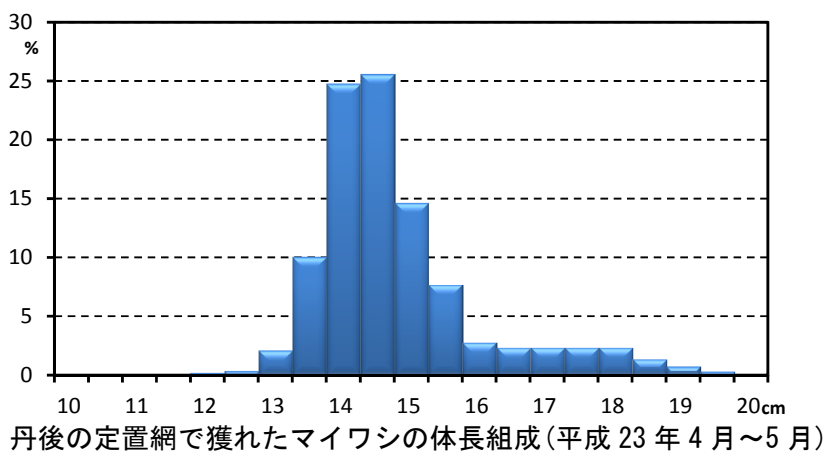
平年は過去10年平均

【トピック ～マイワシの漁模様～】

今年の4月中旬から5月にかけて、丹後海の定置網でマイワシがまとまって獲れました。4月と5月の合計漁獲量は489トンで、最近10年の平均(10トン)の50倍弱に達しました。カタクチイワシなどと選別せずに出荷されたマイワシもあったので、実際の漁獲量はもっと多かったとみられます。



大きさは12～20cmの範囲で、15cm前後の1歳魚(2010年産まれ)が漁獲の中心でした。



広域的にみても2010年産まれのマイワシは最近年の中では比較的多かったとみられ(水産総合研究センター調べ)、今春には境港や銚子など各地の漁港で2010年産まれを中心にマイワシのまとまった水揚げがありました。

マイワシ資源の増減には、十年～数十年ごとに訪れる地球規模の気候と海の自然環境変化が関係するといわれており、冬季に平年より低めの水温が経年的に続く環境になると、マイワシの産卵やその後の生き残り、成長にとって良い条件になるようです。そういった環境になりつつあるのか定かではありませんが、今後この世代が親魚(おおむね2歳以上)として多く生き残れば、一時的な好漁で終わらず、20年以上前のマイワシ豊漁の再来とまではいかなくとも資源回復のきっかけになるかもしれません。